

今回の評論は、結ぶの「人と人の結ぶべき以外に
信ずべきものはない」といふ「単純な真理」といふ

表現が、重要な点と見ておきます。

前回評論の「結論」で「結婚」が、人生を統一する場、
倫理の最も小単位であると同時に最も高単位と
表現してみよう。

人と人の結ぶべきことという表現が、少し抽象的で
わかりにくい。これかいたのですか、
たの表現と重ねて
みると、恒存の、この表現に、こめた意味が深い
ものであります。わかります。(関係の連環を
はかすといふことともなる)

自己心理学の発見も、続く社会学の発見も
キリスト教圏の近代化の歩みである。文化として
人間精神を、絶えず正視してきく歩みと
重なります。

といふことは、今日の評論もまた
明治以降の日本の知識階級が
近代適應の歩みとしてあることと
重なります。